

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	株式会社 クロス・サービス	事業所名	ほのかのぬくもり
所在地	(〒790-0952) 愛媛県松山市朝生田町7丁目13-28		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口として機能できるよう、どんな病態の方にもまずは相談にのっている。 ・ご利用者、一人一人の状態に合わせた支援ができるようにしている。 ・ぬくもりという名前にあるように、職員だけでなくご本人・ご家族相互で関係が深まりホッとできるような雰囲気作りを心掛けている。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2025 年 7 月 20 日	従業者等自己評価 実施人数	(10) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2025 年 8 月 25 日～2026 年 2 月 24 日(開催)	出席人数(合計)	(9) 人	※自事業所職員を含む
出席者(内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員(4人) <input type="checkbox"/> 市町村職員(1人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員(1人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者(1人) <input type="checkbox"/> 利用者()人 <input type="checkbox"/> 利用者の家族()人 <input type="checkbox"/> 知見を有する者()人 <input type="checkbox"/> その他(3人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修による BCP の周知、災害訓練への取り組みを継続する。また、運営推進会議の 6 月の議題として、BCP の周知、訓練を参加者で行う。 ・毎月行っているミーティングにて運営推進会議での内容、助言を職員に相談し、運営推進会議ではミーティングの内容を報告し連動するような会議を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5 月：自然災害 BCP、6 月：感染症 BCP の研修を行い行動確認や見直し、6 月の運営推進会議にて大雨を想定した避難訓練を実施。意見交換を行った。 ・ ミーティングにて対応に困っているご利用者の事を運営推進会議で取り上げ、参加者より助言をもらい、スタッフ間で共有。また状況を運営推進会議にて報告。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然災害や感染症についてはスタッフへの意識づけが必要であり、今後も継続して BCP や訓練の行動確認、見直しを行って行く。 ・ 事業所内スタッフのみの意見だけでなく、会議に参加されている方の外部の評価を聞くことにより自分達の支援内容を深めるきっかけになっており有効であった。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月のミーティングで、カンファレンスの時間をもうけ、ご利用者の情報の共有、アセスメントについての視点を統一する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ カンファレンスでは、ご利用者との関わりで良い反応が見られた内容を共有し継続。また、スタッフが統一した関わりやケアができるよう意見交換し情報を共有した ・ ケアマネを中心にご利用者の状態や状況について意見交換、ケアプランの内容の変更などを共有した 	<p>毎月のミーティングにてカンファレンスを開催することができた。初めはケアマネ主導だったが、現在は看護、介護の担当者がそれぞれの視点でアセスメントや目標を話し合っている。</p>
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の事業所とも連携がはかれるように情報発信や、運営推進会議への参加の声掛けを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で行われる行事(お花見、運動会、秋祭り、敬老会、防災訓練など)にご利用者と一緒に参加。また、ご利用者のご家族への運営推進会議について説明し、参加を促している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事への参加により事業所の存在はアピールできていると思われる。運営推進会議への参加にはまだ繋がっていない。ご利用者ご家族への参加も同様。来年度は多職種連携について取り組んでいきたい。

	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域において世代間の交流の場となるよう年2回「もったいない市・なんでも相談室」を継続して開催する。 ・今後も園児との交流を計画的に継続していく。 ・ご利用者と一緒の行う朝生田公園の花壇の手入れを継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もったいない市(7月・11月)に開催。 ・園児との交流会を計画し(5・9・10・12月)全て実施。 ・公園花壇の手入れは、今回園児さんと一緒にできた(5月)。 ・8月に「ふれあい看護体験」を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もったいない市の開催では、地域の方や近くの事業所の方やご利用者が来所され、スタッフや当事業所のご利用者との交流がはかれた。 ・園児との交流会では敬老会やお祭り、クリスマス等イベントにあわせた交流会を計画。ご利用者、園児さん共に楽しい時間を過ごせた。 ・「ふれあい看護体験」では3名の高校生が参加。事業所内の事や看多機について座学や体験を行った。今後も地域へのアピールを継続。
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者お一人お一人の関わりを見える化できるような取り組みとしてエコマップを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の優先順位の高いもの、看取りや医療職、介護職との連携がありエコマップの取り組みができなかった。来年度もまずは、ご利用者の在宅生活が継続できるようにケアの質を高めていきたい。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の雰囲気や職員のかかわり方、具体的な支援等は自己評価でも職員個々に振り返り、ご利用者を受け入れる際や状態が変わった際にも都度ミーティングで確認しあうことができた。運営推進会議を事業所のフロアで行っており、第三者の方からも雰囲気や職員のかかわり方について評価がもたらえた ・ミーティングにて、運営推進会議を議題とすることで職員の理解に繋がったり地域の評価を伝えたりする機会がつけられた。今後も様々な課題を事業所だけで解決するのではなく、周囲の方の意見や評価も伺って取り組んでいく必要がある ・災害対策については継続して様々なケース（事業所内、ご利用者のご自宅等）を想定して訓練やシミュレーション、手順の確認を行っていく必要がある。 ・職員間のチームワークづくり等研修も計画し継続して行っていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して、毎月行っているミーティングにて運営推進会議での内容、助言を職員に相談し、運営推進会議ではミーティングの内容を報告し連動するような会議を行う。 ・ミーティングで行っている研修に講義だけでなく、体験したり意見交換する場面をつくりスキルアップにつなげる
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月のミーティングにてカンファレンスを開催することができた。初めはケアマネ主導だったが、現在は看護、介護の担当がそれぞれの視点でアセスメントや目標を話し合っている。 ・生活全般のアセスメントや計画作成、看護業務、介護業務と個々の役割で担うことはできるようになっている。今後はご利用者一人一人に対してチームで関わりが持てるようにスキルアップしていきたい。 <p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の生活が継続できるように、医療との連携は勿論だが地域にある医療・介護サービスの理解や情報収集が必要になっている ・医療・介護サービスだけでなく、ご利用者に必要なインフォーマルなサービス（民生員や移動スーパー、介護タクシー等）とも連携し、ご利用者が在宅生活を継続できるマネジメントを目指したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスで使用するモニタリングを職員がそれぞれに担当を持ち、担当のご利用者のアセスメントや願うこと、これからの生活について情報収集したり、意見交換等をおこない、カンファレンスにて共有していく ・ご利用者が継続して生活できるように、地域（事業所の地域、ご利用者の暮らす地域、ご家族の地域）にある、様々なサービスや相談場所、支援内容を知り、情報提供できるようになる

	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ニーズの高い方への支援も訪問看護ステーションの協力もあり受け入れすることができており、在宅で過ごす期間の延長に支援できている。看取り事例も数件受けることができているが、ご家族への事業所の取り組み発信が弱い ・もったいない市の開催では、地域の方や近くの事業所の方やご利用者が来所され、スタッフや当事業所のご利用者との交流がはかれた。 ・園児との交流会では敬老会やお祭り、クリスマス等イベントにあわせた交流会を計画。ご利用者、園児さん共に楽しい時間を過ごせた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きもったいない市や朝生田公園の花壇づくり、地域の保育園の子供との交流を続けていく ・ご家族へ運営推進会議の議事録をわかりやすくしたものを作成し、写真ののったかわら版と共にお渡しする
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・職員個々の業務スキルはあるが、互いの協力や理解が進むことで、よりご利用者にとって適切な支援が提供できるようにスキルアップしていきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職のスキルや業務と介護職のスキルと業務について互いに理解するとともに、役割の違いだけでなく、目的が一緒であることを認識できるようなカンファレンスや意見交換をおこなっていく

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○			<p>伺った際や運営推進会議の場面で、職員とご利用者のかかわり方や外部の方との接し方をみて、ぬくもりがあると感じている。また、どの職員も笑顔で対応していると思う。</p>	<p>✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</p> <p>✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」</p> <p>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>「ぬくもりと笑顔のある暮らし」という理念を掲げている。医療ニーズの高いご利用者に対してご家族と相談し、可能な範囲での在宅生活を継続する支援を行っている。生活機能の維持・回復を目的に生活リハビリを行ったり、できるだけ在宅で過ごせるようサービス内容を変更したり、ご家族の負担軽減を図る為、ご家族のご意向に沿える支援の提供を心がけている。また、看取りに関してもご本人やご家族の意向を聞き取り、ご希望に沿えるような支援の提供に努めている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>入職時のオリエンテーションや、社内での新人研修で「理念」について学ぶ機会を設けている。</p> <p>看護職、介護職が協働して利用者やご家族が笑顔になれるケア、寄り添えるケア、温かみのあるケアの提供を心がけている。</p>					
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している			○			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>各自年間の目標と中間目標を立て、達成できるよう取り組んでいる。定期的に振り返りや評価を行っているが、現状に甘んじてしまう傾向がある。看護・介護リーダーを中心にアドバイスや指導を行っているが、十分ではないこともある。</p>					
		<p>働いてからもマニュアル通りでは判断できないことやご利用者との会話等スキルアップすることが必要なこともあると思う。今後も計画的な育成を期待する。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○			<p>研修の企画をしても研修に行くことが大変と伺う。機会をつくるのが難しいと思うが、E ランニングや動画研修等も活用して確保してもらえたら。また、話し合ったり意見交換から知識を付けることもできるので活用してみしてほしい。</p>	<p>✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します</p>
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○			<p>朝の申し送りやFTの活用、口頭によるスタッフ間の情報交換により共有を行っている(ケアの細かい点は朝の申し送りで再確認している)。毎月行うミーティングでは職員全員が参加し、情報の共有に努めている。ヒヤリハットや事故報告等の情報共有に関しては、回覧形式とし各自チェックしている。事故報告については、一か月後に再度振り返りを行っている。</p>	<p>✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○			地域資源を知る機会になっているので、職員とも共有したりして事業所だけでサービスが完結しないように工夫してほしい。	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 運営推進会議での内容は毎月のミーティングでスタッフに伝達し、共有している。					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] 看護職、介護職各々で担う業務内容や負担に偏りを感じることもあるが、職員間で協力し合い業務を終えている。 相談や意見交換しやすい環境が整っている。 不慣れな職員に対してケアを一緒に行い負担とならないよう、また安心して働けるよう努めている。 職員の急な休みの際、他職員間で協力し、柔軟な対応ができています。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		○				<p>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 口頭による申し送りだけでなく FT を活用し情報共有を行っている。また、FT による情報は繰り返し確認する事ができ、正確な情報共有ができています。早急に共有すべき情報は FT や、LINE 等を用いて対応している。</p>					
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		○				<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> ケア(医療含む)や、交通安全等に関してヒヤリハットにて危惧された内容を共有、検証し重大な事故防止に努めている。事故報告に関しては、一か月後にも対策の振り返り、再検討を行っている。2台の送迎車のうち、1台にはドラレコ、玄関、事業所内に防犯カメラを設置している。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○			昔と災害の規模が違うと感じる。海拔を知っておく等知識も得てほしい。訓練や研修等で必要な対応を都度にチームで考えて対応力を付けてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○			医療サービスに対するアセスメントが居宅でも課題になる。CM の基礎資格が介護職のことも多く、医療の理解が課題になっていると聞いた。ぬくもりでは一緒にできるので強みになるのではないかな。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<p>にしている。</p> <p>ミーティングにて個々で知り得た情報を意見し共有を行っている。</p> <p>24時間の暮らし全体に着目したアセスメントについては不十分な点もあり、今後も研修やミーティングにて理解を深めていきたい。</p>					
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○			<p>デジタルと手書きを使い分けられてわかりやすくアセスメントからケアに繋げておられると思った。</p>	<p>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>ご利用者の状態や内服薬の事、生活で困っていること、気付いたことなどをアセスメントし、両職種間で共有し、統一したケアを行っている。</p> <p>検討したケアの情報共有は FT に入力するだけでなく、必要に応じて口頭による伝達を行い、スタッフ全員が統一したケアが行えるよう努めている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○			実際のプランをみて目標を確認した。	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 面会に来られた時やモニタリング時、送迎時などにご家族と話し、ご意向を確認。ミーティング(カンファレンス)にて検討し、可能な範囲で目標設定や計画作成に反映している。					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○				✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 嚥下機能や、身体状況についてリハビリ職員に介入してもらい、ご利用者の現状を評価し、維持・向上に向けた取り組みを計画、リハビリメニュー等作成してもらい継続的に実施している。ご利用者に応じた生活リハビリを中心に ADL の維持・向上が実施できている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○			自宅に帰ることがリスクになってくる状況があり、なるべく早めにご本人やご家族に提案したり説明していることは知らなかった。時間をかけてリスクを共有することは安心になるのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○			以前だと自宅か病院か、だった状態が小規模や看護小規模が在宅での限界点を上げていると思う。それでも限界はくるので、具体的な妥協点や限界点をご利用者・ご家族と共有することで、次の選択がみえてくるのではないか。丁寧に説明されることを期待する。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している			○		<p>いろいろなケースで利用ができることを理解できた。職員さんは大変だが、家族にとっては安心できるサービスだと思う。</p>	<p>✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です</p>
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○			<p>✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている			○		職域もあると思うが、事業所の雰囲気や職員の個性にもよるところがあると思う。ケアや役割分担については、意見交換が大切だと思うのでいろんな意見がでる環境をつくられることが大切だと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		○			ご利用者の状態の変化に応じて開催するカンファレンスの内容を共有したり、ご利用者の状態について看護師より介護職へ観察点や注意点も含めた情報を説明するなどの連携が図れている。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、 疾病予防・病状の予後予測・ 心身の機能の維持回復など の観点から、情報提供や提案 等を行っている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴 等について、分かりやすく説明 し、利用者等の理解を得て いる		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容]					
		疾患について介護職に分かるように看護師より補足説明している。介護度の高いご利用者が多く、誤嚥のリスクの高い方のケア(食事姿勢、食事形態、口腔ケア、食後のギャジアップ等)や褥瘡予防、運動機能面においても必要性や注意点を提案している。また、看取り期や病状予後予測などについても介護職に情報提供している。					
		[具体的な状況・取組内容]					
		新規相談の見学時や契約時に、ご本人・ご家族に説明している。ご家族については理解を得ている。ご利用者によっては重度心身障害や、認知症を患っている為、不安のないよう都度説明を心がけている。丁寧に声をかけることで頷きなどの反応が得られているが理解を得られているかは不明。理解力のあるご利用者には、必ず理由も含め説明し納得していただいている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			<p>実際自宅で介護や医療が始まるということはイメージしにくい。できないことはしてもらえらると思っていたので、いろんな方法があることを事前に知っておけるのは必要なことだと思った。</p>	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容] 契約時にCM、管理者からご本人、ご家族へ説明し同意を得ている。(ご利用者ご本人へも丁寧に説明し領き等見られるが理解できているかは不明) 計画の変更等あれば、都度内容の説明を行い、同意を得ている。</p>					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			<p>いきなりはできないと思うが、医療職と一緒にしてもらえるのは安心だと思う。病院で使い方の指導があることも知らなかった。</p>	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容] 主治医から指示があった場合、ご家族へ連絡し状態・状況を説明したうえで、ケアの対応についてわかりやすく伝えるよう心かけている。(メールや連絡ノートを活用し文章でも伝えている) 手技について不安があれば一緒に実施するなどのサポートを行っている。 吸引・注入方法など家族に指導、モニタリングでその後の追いかけてもしている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○			<p>馴染んだ環境や職員と過ごせるのは家族にとっても安心だと思う。その都度に意見、意向の確認をすることも関係を維持するためには必要だと思う。</p>	<p>✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容] ご本人よりご希望があればご家族、主治医と相談し、可能な範囲でご意向に沿うようサポートしている。(看取り期における食事の提供、飲酒のご希望の対応等) 病状の変化に応じ、主治医・ご家族と連携を図り(必要時カンファレンスを開催)、情報を共有しご家族の希望やご意向に沿ったサービスの提供を心かけている。(ご自宅での看取り)</p>					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		○			<p>「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します</p>	
		<p>[具体的な状況・取組内容] 連泊の多いご利用者に対し、在宅生活の継続の可否を検討し、ご家族と相談、協力を依頼した。在宅で過ごす時間が増えたケースと、検討中だが、実施に至っていないケースがある。 ご本人やご家族の気持ちを汲み取りながら在宅生活のサポートを継続していく。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <p>病状に応じて主治医、ご家族と連携し、話し合いを重ねながら終末期ケアを行っている。「自宅で看取りたい」とのご家族のご意向に沿えたケース、ご自宅での看取りをご希望されてもタイミングが難しいケース、事業所での看取りであったが看取り期について話し合いを重ね、最終的に看取り期を受け入れられたケースなど、終末期のケアは多岐にわたる。ご利用者の状態に応じ適切な時期を見計らいカンファレンスの開催し、丁寧に説明を行い、説明の内容やご意向などの記録を残している。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>退院前にカンファレンスに参加し情報の共有により在宅支援への移行を支援している。主治医へは、毎月看護計画・看護報告書を作成し、一か月の状態を提出している。また、受診や在宅診療時には、状態の報告を紙面にてご家族に渡したり、FAXにて連携医療機関へ送信している。入院や施設入所された場合には、看護要約を作成し、医療機関や施設への情報提供、共有を行っている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		○			運営推進会議では、活動報告や現状の課題について報告があり、また、地域の状況を伝えている。利用人数や事例についてはサービスを選択する際に参考になっている	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		○			ご家族へもご案内や議事録をお送りしてもいいのでは。事業所に外部の目や意見があるということを知ってもらえるだけでも十分だと思う	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		○			引き続き地域との繋がる機会を持ってほしい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
<p>(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮</p> <p>① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供</p>							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している				○	現状では難しいと思います	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>地域の総会や、石井地区民生委員の役員会に出向き、事業所に説明やパンフレットの配布を行った。定期的に保育園児との交流や、地域交流の一環として「何でも相談室」を開催している。</p>		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>訪問看護ステーションを併設している為、登録者以外の方を対象とした訪問看護の実施は今後も予定はない。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	○				最近経鼻栄養や胃ろうの相談も少なくなっている。病院でも医療の負担が少ない状況で自宅に帰るようにしていると思う	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
37	○ 「看取り支援」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている	○				医療ケアで言えば、点滴等が 事業所では難しく、受け入れ 先がないと伺っている。今後 も地域で医療サービスを提 供できる場所として運営し てほしい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くでき ていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が 介護保険事業計画等で掲げ ている、地域包括ケアシステ ムの構築方針や計画の内容 等について理解している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その 充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあ たっては、その中で各々が果たす べき役割を、明確に理解するこ とが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針 や計画などがない場合は、「全くで きていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	○				もったいない市に地域の方が参加していることを知った。今後も続けてほしい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		○			災害対策に関しては、今後も法人内で訓練を一緒におこなったり、具体的な対応について話し合っしてほしい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている			○		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」 	
		<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <p>同居されているご家族への介護不安に対して助言、指導する機会を設けることはあるが、別居されているご家族へはなかなか難しい。スタッフによる生活面の支援(掃除、洗濯、受診支援)を行っている。近隣住民へは訪問や、送迎時に挨拶を心がけているが、関わりは不十分である。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>② 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>[具体的な状況・取組内容] 計画目標をスタッフ間で共有し、目標達成のための取り組みを行っている。また、定期的に意見交換を行い、目標の振り返りができている。</p>	在宅での生活課題が解決できるように支援をかさねてもらえたらと思う	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>② 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>[具体的な状況・取組内容] 医療的ケアに不安がある場合、訪問対応し一緒に実施したり、都度相談に乗ることで、安心につながっている。</p>		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		昼夜問わず、不安な時は看護師が訪問対応し、必要に応じて主治医と連携を取り診察依頼を行っている。		
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>② 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>事業所、ご自宅、どのような場合であっても、ご希望に応じた看取りを在宅医の力を借りて行っている。</p> <p>不安時や、緊急時には看護師が24時間対応できる体制にある。</p> <p>ご自宅での看取りをご希望されても、状況により対応できないこともある為、在宅医を含めて説明を行い、ご家族の了承を得る場合もある。</p>		<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>